『同志社大学留学生別科紀要』第５号　2005年12月25日

新聞「ニュース抄録」を活用した日本語教育
――同志社大学留学生別科「読解」クラスでの実践例――

山　口　育　子

要　旨

「ニュース抄録」は，前週一週間のニュースを「政治」「国際」「経済」「社会」の分野別に，要約したものである。選んだ記事に番号を振り，別紙に，難解語句の読み，連語，反意語などを記して毎回配布した。授業では，この別紙の該当部分を範読した後，斉読し，記事を一人が読み上げるという形を繰り返して読み進んだ。適宜，自由意見交換を織り交ぜた。

全体を通した資料と，記事に即した資料とを準備し配布して，授業に取り入れた。世界地図と日本地図で，場所を示して確認させた。副教材として，新聞記事に頻出する語句を選定し，ルビを付した一覧表を分野別に作成した。これを適宜，授業の中に組み入れた。

学期開始の２回目から，授業の前半に「ニュース抄録」を，後半に「学生が選んだ記事」を読む，という二本立ての形態にした。学生二人を担当者にあてて，キー・ワードを５つ書き添えた記事を事前に提出させた。授業では担当者が選んだ理由を述べた後，読み上げ，読後に質疑応答を設けた。

毎回「記事に対する感想，疑問，意見」シートを宿題にして提出させた。文法チェックとコメント付記して返却し，個別の問題意識に対応した。学生は国際情勢や日本の社会問題に関心をもっている。記事がクラスの皆で考える素材となり，感想や疑問などの発言にも多彩な展開が見られた。

1. はじめに

学習者個々の新聞閲読習慣の程度差が反映されることは，母国語による新聞学習にも言えることであるが，さらに目標言語で書かれた新聞となると，その内容理解には，語彙や表現などの言語習得に加えて，背景にある社会文化の基礎知識が必要とされる。従って，日本語学習の教材として「新聞」を扱う場合，言語面と文化面で問題点があるが，日本語習得のプロセスを通して，異文化理解を促すことができるので，意義があると考える。

筆者は教材として，学習者の多様な興味や関心に応え，かつ幅広い分野に触れることができることを考慮して，政治，国際，経済，社会を扱う「ニュース抄録」(「読売新聞」月曜日朝刊掲載）を取り上げた。

「読解」を単なる文法的あるいは文意上の読み取りだけに終わらせずに，記事を通じてより一層の社会文化に対する理解を深められるような授業を試みた。具体的には，読後に意見交換を導入し，「記事に対する感想，疑問，意見」シート記入を宿題として課した。その結果，この一連の学習活動が，文化理解と深化につながるとともに，自分の考えを日本語で表現する練習に役立った。学期末の記述試験では，日本の新聞の特徴に深い洞察が窺えた。これらの点については，6—1及び6—2で詳述する。

今回試みた授業では，新聞記事という時事内容が，学習者の問題意識を引き出し，ニーズに応えるものだったので，学習者は主体的に学習に取り組むことができ，言語能力向上と異文化理解に有効だった。

但し，国際政治に関わる記事では，教室で個人的な感想や意見を述べるのは，該当する国の級友と感情的になるので配慮してほしいというクラス運営への要望もみられた。日本語教育の現場では，学習者一人一人が母国文化の体現者である。多国籍学習者の混在する日本語クラスで，国際問題の記事の扱い方に課題が残った。

本稿では，同志社大学留学生別科（以下，別科と略す）で実践した，計三期の新聞「読解」の授業のうち，一期目，二期目の授業運営の反省を踏まえた，三期目にあたる2005年度春学期の授業について見る。シラバス，授業計画，学習活動，アンケート，授業記録などを検討しながら，問題点や指導

に工夫を要する点など，考察した結果を報告する。

2. 学 習 者

新聞ニュース読解を授業で実施したのは，別科の2004年度春学期と秋学期，ならびに2005年度春学期の，計三期である。

①2004年度春学期の学習者は，日本語学習歴が１年10か月から６年までの８人である。その国籍は中国７人，韓国１人で，年齢が21歳から30歳までの男性２人女性６人であった。

②2004年度秋学期の学習者は，日本語学習歴が１年１か月から５年３か月までの10人である。その国籍は中国７人，韓国３人で，年齢が21歳から29歳までの男性２人女性８人であった。

③2005年度春学期の学習者は，日本語学習歴が9か月から9年までの１２人である。その国籍は韓国６人，ドイツ３人，中国１人，イギリス１人，オーストラリア１人で，年齢が21歳から40歳までの男性２人女性10人であった。今期は，多国籍の学習者が混在して活発な意見交換が見られた。

3. 教　　材

３－１　主教材

教材として採用した記事は，一週間の出来事を政治，国際，経済，社会の分野別に，日を追ってまとめたものである。日本語教師の中には自分の得意でない分野の記事を避けて通る傾向があると指摘されているので，この問題点を踏まえ，各分野を取り上げている記事を主教材に採択した。

①2004年度春学期は，読売新聞「ニュース抄録」（月曜日朝刊に掲載）を扱ったが，全項目を取り上げたので，時間的に見て分量が多過ぎた。

②そこで，2004年度秋学期は，京都新聞「週間ニュース・ファイル」（月曜日朝刊に掲載）に変更した。これは分量が約半分だった。

③2005年度春学期は，再び「ニュース抄録」に戻って，今度は教師が各分野から読む記事項目を選択した。キー・パーソン，キー・ワードのコーナーからも選んで関連する記事の後に取り入れた。

三期とも毎回，各記事の難解語句の読み（ルビ），連語，反意語などを記

した「語句表」を準備して，併用した。

②と③では，授業後半に，学生二人が選んだ記事も取り上げた。担当者にキー・ワードを５つ書き添えた記事の切り抜きを前週に提出させ，コピーしたものを当日配布した。

３―２　副教材

副教材として，記事に即して「水俣病」「中台関係」「パレスチナ問題」「自衛隊」「靖国神社参拝問題」の資料を準備した。他に，全体を通した配布資料として「日本の統治機構（省庁）」「日本国憲法の三原則」「三審制」ならびに「裁判関連の言葉」「見出しの決まり文句」を勉強した。適宜，世界地図と日本地図で場所を示し確認した。

他に，筆者作成による４分野（政治，国際，経済，社会）別の「頻出語句表」（参照，参考資料）を配布し，授業中に確認しつつ記事を読み進んだ。

4. シラバス

以下，2005年度春学期の授業について報告する。週１回１コマ（90分）の授業で，前半に「ニュース抄録」を扱った。取り上げる項目は，各分野（政治，国際，経済，社会）の中でも偏らないように配慮して，選んだ。

授業後半は，担当者となった学生二人が選んだ記事を取り上げた。

「ニュース抄録」	S学生が選んだ記事（資料／副教材）
①　3/27―4/2	（日本の統治機構省庁，「政治」頻出語句）
②　4/3―4/9	S９八方塞がりの日本外交 （「国際」頻出語句）
③　4/10―4/16	S３タンポポ雑種　S10舞台古典の力 （日本国憲法の三原則）
④　4/24―4/30	S２従軍慰安婦集会　S８ネオナチ台頭
⑤　5/1―5/7	S１犬と飼主　S４関西エロス学社会覗く
⑥　5/8―5/14	S11城下蔵見学　S12非正社員労組 （「経済」頻出語句）
⑦　5/15―5/21	S６独総選挙前倒し　S７下着姿フセイン

⑧　5/22―5/28	S9人口減社会　S10 KCIA指示殺害 (「社会」頻出語句)
⑨　5/29―6/4	S3田植え祭　S12全面禁煙の飲食点
⑩　6/5―6/10	S1父の日アンケート　S8黒人差別CM (三審制，裁判関連用語)
⑪　6/12―6/18	S2国登録文化財　S11愛・地球博に 復元船500年ぶり大航海
⑫　6/19―6/25	S4自然歴史シンポ　S7タイ孤児施設 エイズ・ルポ
(見出し決まり文句)	S6ロボット授業一般公開

5. 授業計画

「新聞」読解を通して，日本語4技能を高めるように，(1) 記事を「読む」，(2) 説明を「聞く」，(3) 意見交換で「話す」，(4) 提出シートに「書く」の一連の学習活動をデザインした。「ニュース抄録」の選んだ記事に番号を振り，ルビを振った語句表の該当する部分を，記事に入る前に斉読した。一人一記事を読み進み，適宜，質問や自由意見交換を織り交ぜた。

後半は，担当者となった学生二人が選んだ記事を読んだ。二期目は1行ずつ輪読したが，三期目は担当者が読み上げた。始めに担当者がその記事を選んだ理由を述べ，終わりに相互に質疑応答させた。

授業では学習者に，記事内容に関連する母国事情／現状を紹介説明してもらう活動も組み込んだ。質疑応答や意見交換したことにより，内容理解を深めた。この活動は，日本語で表現する練習にも役立った。

NIE（注1）活動の目標は，ニュースや情報の整理，分析，再構築という訓練を通じて，自ら考え判断する能力を育むことである。これに加えて，日本語教育の現場で筆者は，学習者が自分の考えを日本語で表現し，外へ発信することでコミュニケーションできることを目標とし，教師は 考え方の視点を提供するという基本姿勢で，当授業に臨んだ。

6. 検　討

6—1　提出シート

学習者に課した毎回の提出シートの内容は，「ニュース抄録（全項目）／学生が選んだ記事」の中から一つ選んで「記事に対する感想，疑問，意見」を書くものである。宿題にして翌週提出させた。シート記入は，文法上の誤用など表記上の訂正ができたし，コメントを付記して返却することによって，個別の問題意識に対応することができて良かった。

以下，各回の記入例から，＜政治／国際／経済／社会＞の順に幾つか選んで，その要点を記す。《　》は授業記録から抜粋した，授業中の発言である。率直な感想や，素朴な疑問が問題提起となって，意見交換がすすんだ。

①　S1＜政治・議定書目標達成へ「環境税は検討」＞　地球温暖化の時代で，「京都議定書」は一国だけ行うことではない。税金を賦課するより，国民が関心を持つような策が重要だ。」

S7＜国際・全頭検査の見直し了承＞　BSE感染疑惑の牛肉輸入にあたり厚生労働省の心配することは正しい。」

②　S8＜政治・中学教科書にも発展的記述，「領土教えるのは当然」＞竹島の領有権について客観的で十分な事実を示すべきだ。」

S7＜国際・タイ南部で爆弾テロ＞　少数グループの意見に耳を傾けなければ，テロは止まらないだろう。」

③　S11＜経済・中国がアジア最大の貿易国に＞　中国での反日感情の高まりで，貿易摩擦の問題が出てきた。」

S7＜社会・ワンクリ請求＞　「オレオレ詐欺」のような犯罪に加え，電話による犯罪は重大な問題で，対策が必要である。」

《　米軍基地への経済援助は，憲法違反ではないか　》

④　S1＜国際・反日問題無関心ではいられない＞　中国や韓国は，歴史教科書や領土問題で，理性的に行動することが大切だ。」

S11＜社会・快速が脱線，JR最悪の惨事＞　定時出発／到着という原則は大切だが，どんな場合でも原則より人間である。」

《　欧米の級友は「従軍慰安婦」を知っているか　》

⑤　S９＜政治・たくさんの国民消極的＞　裁判員制という司法参加に関し，精神的負担が大きいと感じるのが日本人の本音なのだろう。」

⑥　S11＜経済・トヨタGM提携強化＞　ガソリンは値段も高いし環境にも悪いし，提携による「燃料電池車」の開発を期待したい。」

S４＜社会・虚偽説明，誠に遺憾＞　TBSが他社の記事を盗用したのが発覚したが，日本では盗用に対する処罰が軽いのではないか。」

⑦　S９＜国際・クローン技術で患者ES細胞＞　韓国ソウル大学の研究結果は，今まで不治の病だった患者や家族に希望を与えた。」

S10＜国際・下着姿のフセイン元大統領＞　ジュネーブ条約に違反する写真が，米軍への反感を招くだろう。犯罪者の人格が無視されている。」

《　靖国資料館を訪れたが，説明文に事実が書かれていない　》

⑧　S４＜国際・イランは核関連活動凍結を延長＞　世界で，国々は自衛のため，抑止戦略として，原子力兵器を開発している。」

S11＜社会・人口減社会目前に＞　多様化社会に，当然の現象かもしれない。国は子供を増やす政策より，人口減少に合う政策を立てる必要がある。」

⑨　S12＜政治・警察庁が容疑者DNAデータベース化＞　治安のために一理あるが，容疑者はそれに対して権利があるのかが問題だ。」

S８＜国際・ユコス元社長に懲役９年＞　ロシアの野党に資金援助していたという理由で，普通より厳しく扱われるなら，正当ではない。」

⑩　S10＜社会・マンダムCM黒人差別　指摘で中止＞　思考の幅が狭く感じられる。芸術／メディア分野では，明確な定義を下すのは難しい。」

《「障害者」は差別用語ではないか。韓国では「障害友」という　》

⑪　S６＜政治・外国人登録者数が過去最高＞　最近増えた外国人の中には，異国の文化や伝統が分からない，分かりたくない外国人も多い。」

S10＜社会・教職員殺傷の17歳「刑事処分相当」＞　残酷な事件が多い。個人主義が強い日本で，人間尊厳の教育が行われているか。」

⑫　S10＜国際・靖国は歴史問題の核心＞　韓国側では，悲しい歴史を象徴することだから，友好関係のため賢明な判断を下してほしい。」

S９＜経済・調査捕鯨の倍増目指す＞　鯨を食べる食文化を批判はしないが，食用捕鯨が禁止の中，調査名目で捕鯨をして業者に売る行為は不正だ。」

以上の記入例からも分かるように、学生たちは国際情勢や日本の社会問題に関心を持ち、各自の感想、疑問、意見を日本語で発信している。

6—2 レポート

学期末に，記述試験を実施した。事前に与えた課題は，「「日本語新聞の題材，表現，表記について」母国の新聞事情と比較して，具体例を挙げて感想や意見を書く」とした。以下，記入例から，その要約を記す。

「日本語新聞の題材，表現，表記について.」

S1「以前，北朝鮮のミサイル発射を報じる時に，本来は「公海」に向けたものを「日本海に向けて発射された」とあったが，日本の国民感情がどこに向かったのか，どこに向けさせたいのか，一つの表現の違いを考えさせられる報道だった。また日本の新聞では，外来語の乱用が目に付く。最近問題になっている「アスベスト」は，カッコ書きで必ず「石綿」と記しているが，なぜカタカナ語が前に出てくるのだろうか。以前流行語になった「マニフェスト」は，「公約」という言葉があるのに，なぜ使用するのか。この違いは両国の文化，認識の違いから生じるものだと思われる。」

S2「日本の新聞はたくさんの図表を使う。例えば，先週ロンドンの多発テロを報じるとき，地図をのせて爆発場所を明確に表示した。読者に分かりやすくさせる工夫がある。中国の新聞は基本レベルの写真は載せるが，図表はあまり使わない。日本人のサービス精神が，新聞にも反映されている。」

S4「新聞を全体的に分析すると，記者の個人的な意見というより新聞社が受ける影響が分かる。例えば，オーストラリアの「ヘラルドサン」は，記事の表現に右派の方を支持しているものがある。日本の新聞を見ると，国際分野の表現には日本側を支持する傾向も感じる。」

S7「日本の記事は，比較的客観的だ。イギリスの記事は，筆者の意見がはっきり分かるけれど，これは良いこととは一概に言えないだろう。例えば，日本なら見出しは「日中関係悪化に」として，単なる事情を報じるようだが，イギリスなら「こういう点で日本は／中国は違う。」と明白に意見を言い，どちらかの側に付く。さらに，よく誘導言葉を使う。客観的な日本の報じ方がいいかもしれないが，イギリスの方が楽しい。が，その一面でイギリスの無責任なジャーナリズムはよく批判されている。一方，日本の新聞は薄弱だ

と言われている。互いに学ぶところがあるのではないか。」

S8「犯罪の報道の場合，日本の新聞だと容疑者の名前が全部載せられる。ドイツでは容疑者の名前はあまり重要ではないと考えられ、普通，下名前と名字の頭文字だけが記載される。また，日本語新聞で使われる短縮／省略の表し方は面白い。和語を漢語に変え，「する」などの動詞を使わずに，スペースを節約しながらも十分に伝えることができる。」

S9「日本に，韓国の「ハンギョレ」のような革新性が強い新聞がないのは残念である。韓国の新聞は政治面が多いが，日本は，国際面と経済面が多い。国民の関心度によるのだろうか。」

7. アンケート結果

最後に実施したアンケートの結果を記す。回収したアンケート数は，11人である。集計結果を%で表示する。

Ⅰ．授業形態は　①このままで良い55%　②「ニュース抄録」だけが良い　9%　③「学生が選んだ記事」だけが良い18%　④教師が選ぶ一つの記事が良い　9%　⑤その他　9%

Ⅱ．新聞各分野の頻出語句が　①読めるようになった　73%　②前とあまり変わらない　18%　③その他　9%

Ⅲ．「記事に対する感想，疑問，意見」シート記入は

①必要　55%　②不要　9%③どちらでも良い　27%　④その他　9%

①書きやすかった　64%　②書きにくかった　18%　③その他　18%

Ⅳ．「新聞・読解」を勉強するようになってから変化は（複数回答）　①日本語の新聞をよく読むようになった　27%　②母国語の新聞をよく読むようになった　0%　③テレビのニュースをよく見るようになった　36%　④友達とニュースについてよく話すようになった　18%⑤前とあまり変わらない　45%⑥その他　9%

Ⅴ．授業の進め方について良かった点や改善してほしい点（要望）など

・「普段新聞をあまり読まなかった私にとって毎週固定の時間に最近の重要ニュースを読めるのが楽しかった。たくさんの新聞常用語を覚えたので，今日本語新聞の読解力は前より向上したと感じる。新聞を読む習慣が次第に身

に付いた。」・「日本に来て新聞を読むのが難しくて諦めたことが何度かあるが，この授業を受けてからは毎日社説を読むようにしている。日本語の勉強にもなるし，日本の文化と生活を理解するのに新聞は最適だと思う。」・「この授業ははじめにあまりに難しすぎて，ペースも速くてとても困難した。が，難しかったからこそ好きな授業になり，良い勉強になった。」・「多読の授業だっただけに，多くの記事を読むことになって良かった。」
・「どの記事ももっと詳しく扱って議論したらよかった。」・「一つの新聞社でないほうが中立した視点を持たせると思う。抄録は題目ぐらい読んで，そこから選んだニュースの長い記事を調べて読んだほうがいい。」・「日本の社会を見る観点はいろいろだから，いつも一つの観点で勉強するより他の方向の考えを持っている新聞の記事も読みたい。」

8. おわりに

以上，新聞「ニュース抄録」を教材として取り上げ，総合的な日本語運用能力の向上と異文化理解を考えて実践した授業とアンケートを検討した結果，次のようなことが確認された。

(1) 日本語教育における「新聞」学習は，日本語習得のプロセスを通して，日本文化を体得させ異文化理解を促すことができるので意義があるが，言語面と文化面で手当てが必要である。言語面では，使用頻度の高い語彙や表現などに注目させたことで，新聞を読むスピードが速まった。文化面では，共有文化として省略されている部分を補うとき，教師の資質が問われるが，取り上げる分野が偏らないように留意することが重要である。

(2) 記事を通じて日本社会文化の理解を深めるために，授業に工夫を要する。今回試みたのは，読解を文法的あるいは文意上の読み取りだけに終わらせずに，意見交換や質疑応答を織り交ぜ，「記事に対する感想，疑問，意見」シートの記入を導入した授業である。この一連の学習活動が日本文化の理解と深化につながるとともに，自分の考えを日本語で表現する練習に役立った。新聞記事／社会動向という内容が，学習者の問題意識を引き出し，ニーズに応えるものだったので，学習者は主体的に学習に取り組むことができ，言語能力向上と異文化理解に有効だった。

(3) 国際政治に関わる記事では，個人的な感想や意見を教室で述べるのは該当する国の級友と感情的になるので配慮してほしいというクラス運営への要望もきかれた。日本語教育の現場では，学習者一人一人が母国文化の体現者である。多国籍学習者の混在する日本語クラスで，国際問題の記事の扱い方に課題が残った。

(4) アンケートの要望にみられるように，他紙との比較読みも検討課題である。各紙の構成や掲載記事など異なることに気付き，新聞社によって情報の選択操作過程を経ていることを知るのは重要であるし，また，新聞メディアに対する活用能力や批判力を養うために，複数の紙面比較や読み比べは必要であろう。機会があれば採用してみたい。

注

(1) NIE（Newspaper in Education）とは，新聞側と教育側が連携し，新聞活用教育を実践的に研究し，成果を組織的に発展させていくことを目的とした教育活動である。この点が従来の新聞活用と異なる。日本での導入は1989年で，活字離れ対策とともに教育改革の一端を担う側面があり，情報選択能力や思考力の育成などを目指している（枝元　1998，ほか）。

参考文献

大谷昭宏編著（1995）『ニュース報道の常套句』日本実業出版社

小川貴士（1993）「読みにおけるコミュニカティブ・アプローチについて――　上級読解クラスの一試案」『日本語教育』80号　日本語教育学会

枝元一三編緒（1998）『国語教育とNIE――教育に新聞を!』大修館書店

片山朝雄（1983）『ゆれ動く言葉と新聞』南雲堂

鹿野川喜代美（1997）「教育と新聞――NIEの運動について」『ドキュメント戦後の日本――新聞ニュースに見る社会史大辞典――文化編36学術と文化の軌跡』所収　国立国会図書館編集

鈴木伸男（1989）『新聞教育入門』白順社

玉木明（1996）『ニュース報道の言語論』洋泉社

林ケ谷昭太郎（1990）『日本の新聞報道』池田書店
山口育子（1999）「日本語教育における新聞学習——龍谷大学国際文化学部日本語クラスの場合——」『龍谷大学国際センター研究年報』第８号

参考資料　「分野別頻出語句表」

政治

会談　前向きに検討する　意見交換　画定　引き続き協議する　行政　一致
実施　対策　全力で取り組む　解決を目指す　決意表明　強調　態度保留
方針を示す　条約締結　関連法案を整備する　立案　国会提出　明言を避ける
審議　可決成立　与野党の攻防　派閥　所属　閣僚　政府　代議士　閣議決定
指示　演説　区切り　衆/参議院　承認　撤廃　政策　大綱　任命　諮問機関
施行　就／解／辞任　宣言　参画　修正　賛成多数で可決する　改革　指針
政権　分析　法案に盛り込む　譲歩　指摘　推進　提言　免責　主張　了承

国際

合意　共同声明を発表する　国連　査察　監視　派遣　撤退　信頼　暴動
鎮圧　抗議　対立　和解に向かう　見合わせる　幕を下ろす　発足　復帰
双方　名誉　史上　制裁を加える　是非を決める　（積極）姿勢を示す　会見
緊張が高まる　紛争　回避　接触　支持　選挙　弾劾　排除　維持　開催
妥協案　公式訪問　期待　基金　治安強化　言及　拒否　占拠　攻撃　防衛
戦略　発効　協力　調印　署名　採択　観測が広がる

経済

買収　合併　見通し　交渉　改善　資産　資金繰り　損益　販売　合弁　売却
決算　上／下半期　上／下回る　赤／黒字　計上　債権処理　持ち株　譲渡
為替市場　変動　金利　投資　倒産　負債が膨らむ　同意　削減　景気の動向
振興策　（業務/技術）　提携を強化する　申請　貿易　輸出入　業界　存続
管理　調達　企画　財務省　労組　平均　開発　格付け　金融　担保　規模
監査　折半　退陣　懸念が強まる　最高値を更新する

社会

事情聴取　逮捕　違反　汚職　贈収賄　供与　容疑　捜査　疑いが強まる
業務上過失致死　罪に問われる　起訴　懲役　執行猶予　証拠隠滅　未遂
資料を隠す　地検特捜部　有／無罪　判決を言い渡す　詐欺　汚染　廃棄
責任　背任行為　総会屋　被／原告　義務　慎重に調べる　地／高／最高裁
脱税　談合　偽証　更迭　天下り　訴訟　賠償　請求　措置　対応　自首
共犯　情報　認識　疑惑